ヒヤリ地図をつくろう

～シルバーによるシルバーのための交通安全～

その手引き

財団法人国際交通安全学会

ヒヤリ地図をつくろう　目次

A．ヒヤリ地図って何でしょう？ …… 3
Ⅰ．暮らしのまわりにたくさんある「ヒヤリ」、「ハッと」の経験
Ⅱ．ヒヤリ地図の作成をおすすめする理由 …… 4
Ⅲ．ヒヤリ、ハッとの経験を地図に …… 5

B．ヒヤリ地図の作成の手順はこうです（要旨） …… 6
Ⅰ．準備
Ⅱ．用意するもの
Ⅲ．作業 …… 7
Ⅳ．ヒヤリ地図を公開して、さらに充実させましょう

C．ヒヤリ地図作成の手順をすこし詳しく …… 8
Ⅰ．準備
①ヒヤリ地図作成の主催者をどこにするかを決めます
イ．主催者が地域の老人クラブや町内会などの場合
ロ．主催者が自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合
②実施グループのリーダーを決定
イ．主催者が地域の老人クラブや町内会などの場合
ロ．主催者が自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合
③主催者とリーダーとの打ち合わせ
イ．打ち合わせの内容
ロ．白地図に示す地域の範囲 …… 9
ハ．模擬実験
④ヒヤリ地図作成作業への参加の呼びかけをします …… 10
イ．呼びかけの方法
ロ．作業の日時
ハ．作業の規模
Ⅱ．用意するもの …… 11
①会場
イ．会場の用意
ロ．会場の条件
ハ．その他の備品
ニ．ビデオ再生設備など
ホ．お茶、お茶菓子
ヘ．テープレコーダー
②用具
イ．白地図
ロ．白地図の作り方
ハ．この手引きで使う「型」という言葉 …… 12
ニ．タックシール
ホ．マーカーペン（各色） …… 13
ヘ．アンケート用紙

Ⅲ．作業実施 …… 14
①リーダーによる説明
イ．趣旨説明
ロ．進め方の説明
ハ．（必要なら）地域の範囲の再検討 …… 15
ニ．（必要なら）軽い練習、あるいは相談
②作業１（地図を理解してもらう）
イ．地図の上の主な建物や道路などを確認
ロ．現在作業している会場を地図上で確認
ハ．地図の上で各参加者の家を見つける
③作業２（ヒヤリ個所の指摘） …… 16
イ．参加者の一人一人にタックシールを配る
ロ．シールを貼る順序
ハ．同じ場所でもどんどん貼る
ニ．自分の貼った個所が少なくてもいい
ホ．道のでこぼこにも貼る …… 17
④作業３（作成した地図の確認と掘り下げ） …… 18
イ．シールの貼られた場所をみんなで再確認します
ロ．リーダーは、ヒヤリ個所の説明を参加者に求めます
ハ．気がついたヒヤリ個所の改善提案を出してもらいます …… 19
ニ．リーダーは、あとあとのために、この会合の記録をとり、報告書を作ります
ホ．できればヒヤリ地図と、同地域の「事故発生地点図」とをくらべてみましょう
Ⅳ．ヒヤリ地図を公開して、さらに充実させましょう …… 20
Ⅴ．応用を考えて下さい

D．資料 …… 21
Ⅰ．「C．ヒヤリ地図作成の手順をすこし詳しく」の補足
準備の項
①自治体の交通安全対策担当者への趣旨説明、相談の内容
②警察署交通課への趣旨説明、相談の内容 …… 22
Ⅱ．ヒヤリ地図完成後に参加者に記入してもらうアンケート用紙 …… 23
イ．国際交通安全学会が使ったアンケート用紙
ロ．国際交通安全学会がヒヤリ地図作成会場で行なったアンケート調査の概要
Ⅲ．新聞に掲載されたヒヤリ地図づくり …… 26
Ⅳ．テレビで放送されたヒヤリ地図づくり …… 28

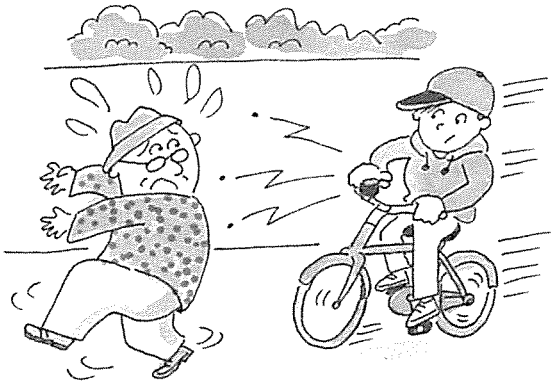
A ヒヤリ地図って何でしょう？

1．暮らしのまわりにたくさんある「ヒヤリ」、「ハッと」の経験

歩いていて、自転車に乗っていて、車を運転していて、ヒヤリとしたり、ハッとしたことはありませんか？

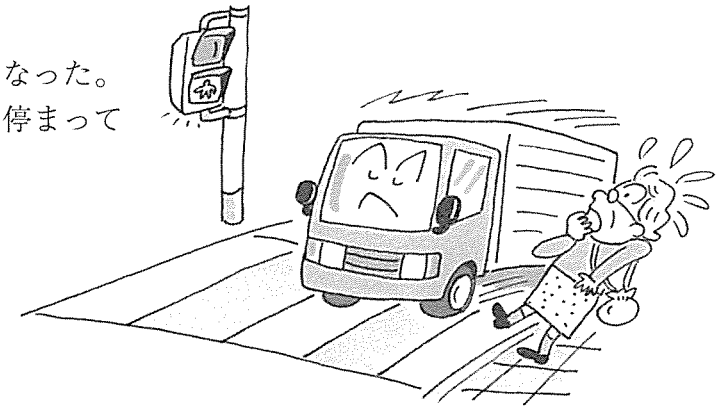
［歩いていて自転車にヒヤリ］

★突然、四つ角から自転車が曲がってきた。
★無灯火の自転車が急に現れた。
★後ろから自転車にベルを鳴らされ、どっちへ逃げればいいかまごついた。



［歩いていて自動車にヒヤリ］

★速度を落とさない車に吸い込まれそうになった。
★横断歩道で、目の前を左（右）折車が、停まってくれずに通り過ぎた。



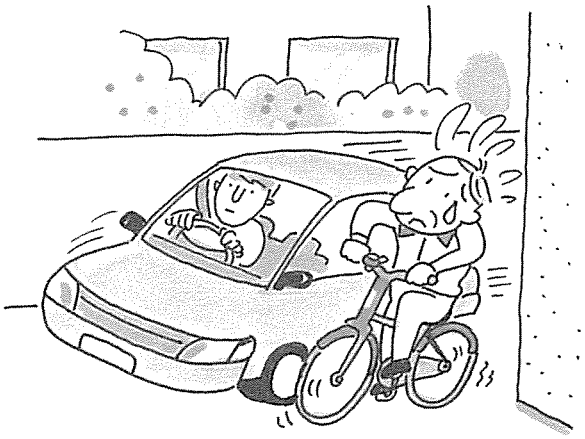
［歩いていて道路でヒヤリ］

★マンホールの出っ張りにつまずきそうになった。
★歩道の水たまりで滑りそうになった。
★狭い道の端を歩いていたら、太い電信柱に邪魔されて、車が来る真ん中に出なければならなかった。

［自転車に乗っていてヒヤリ］

★四つ角に出ようとしたら、出合い頭に車とぶつかりそうになった。

★狭い道で、すれすれの所で車に追い越され、倒れそうになった。



［自動車を運転していてヒヤリ］

★電柱のかげから子どもが飛び出してきた。

★曲がり角から自転車が一時停止をせずに飛び出してきた。

この他にも、さまざまなヒヤリとしたり、ハッとした経験をお持ちだと思います。

Ⅱ．ヒヤリ地図の作成をおすすめする理由

いままで安全対策は、自治体や警察の仕事と考えてきた方も多いと思います。しかしヒヤリ地図をつくる作業は、高齢者自身で、自分たちを取り巻く地域の問題点をえぐり出すための手段です。自治体や警察も一生懸命、問題点を探す努力はしていても、担当者は比較的若く、担当者の想像を超える問題点が無いとはいえません。

私たちがヒヤリ地図の作成をおすすめするのは、高齢者ご自身で交通問題を考え、深め、ご自身の手で対策の糸口を探していただきたいからです。

１件の重大な事故のかげには、29件の同種の小さな事故があり、さらにその根底に300件のヒヤリ体験が隠されているといいます。ヒヤリ体験を軽く考えてはならないことを、この法則は語っていると思います。

メモ

Ⅲ．ヒヤリ、ハッとの経験を地図に

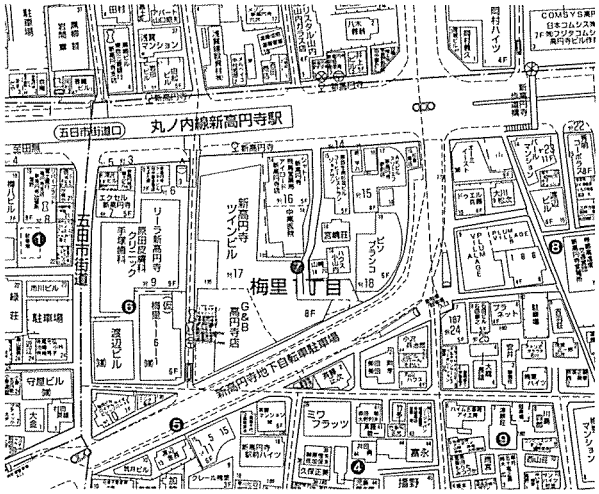
メモ

高齢のみなさんが、それぞれにヒヤリとしたり、ハッとされた場所を、白地図（はくちず）にタックシールを貼っていくことによって、その地域の危険地帯がはっきり浮かび上がってきます。

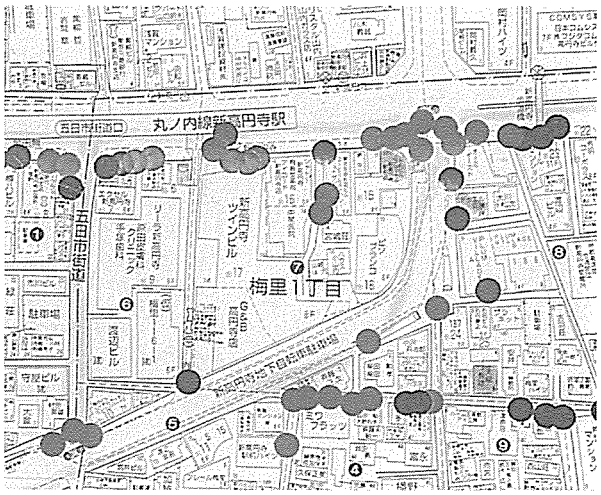
白地図　本来の白地図は、地名やその他の記号、文字が記入されていない地図をいいます。しかしこの手引きでいう白地図は、単に色を使わず、白地に黒で描かれている地図のことです。町名番地や道路名、施設名、さらに各家の名前も入っています。

タックシール　台紙に貼りつけられた赤、青、緑、黄、黒などの小さな円型の紙です。これを一枚一枚剥がして、白地図に貼りつけます。紙の裏は粘着性があるので、簡単に貼りつけることができます。

ヒヤリ地図をつくりながら、それぞれの場所でのヒヤリやハッと体験が、どんな状況で起こったかを思い起こし、語り合っていただくことによって、自分たちがその場所ではどんな注意をしたらいいのか、どんな対策を自治体や警察に考えてもらったらいいのかがわかってきます。



使用前の白地図



タックシールが貼られた完成後のヒヤリ地図

B ヒヤリ地図の作成の手順はこうです（要旨）

まずヒヤリ地図はどんな順序でつくるのかを、項目だけ順にご紹介しましょう。詳しくは、8ページから項目ごとに説明をします。

メモ

Ⅰ．準備

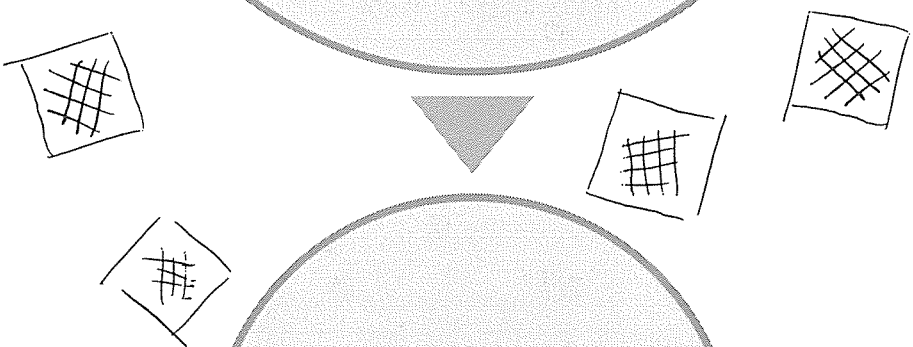
①ヒヤリ地図作成の主催者をどこにするかを決めます

主催者が、地域の老人クラブや町内会などの場合もありますし、自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合もあります。

②実施グループのリーダーを決めます

③主催者とリーダーとの打ち合わせをします

④ヒヤリ地図作成作業への参加の呼びかけをします

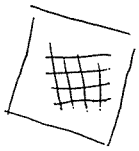


Ⅱ．用意するもの

①会場

②用具

メモ



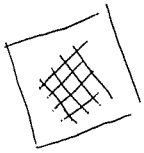
Ⅲ. 作業

①リーダーによる説明

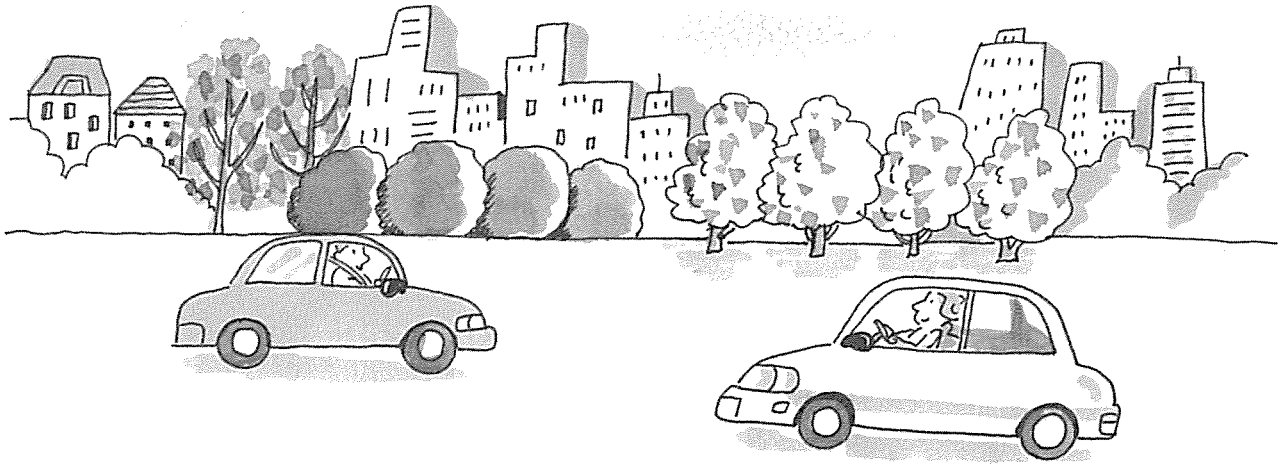
②作業１（地図を理解してもらう）

③作業２（ヒヤリ個所の指摘）

④作業３
（作成した地図の確認と
掘り下げ）



Ⅳ. ヒヤリ地図を公開して、さらに充実させましょう



C ヒヤリ地図作成の手順をすこし詳しく

それでは、Bに書いたヒヤリ地図作成の手順の要旨を、項目ごとにすこし詳しく説明しましょう。

Ⅰ．準備

メモ

①ヒヤリ地図作成の主催者をどこにするかを決めます

主催者には、つぎの２つの場合があります。

イ．主催者が地域の老人クラブや町内会などの場合

ロ．主催者が自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合

②実施グループのリーダーを決定

イ．主催者が地域の老人クラブや町内会などの場合

主催者は、リーダーとしてどんな人に期待できるか、またどんなかたちで参加者を集めるかなどを決めます。

また地元自治体や警察に趣旨を説明し、協力を求めることも必要でしょう。場合によっては、用具や会場の手配や費用などについても、地元自治体や警察に相談する必要が起こるかもしれません。

ロ．主催者が自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合

実施グループのリーダーを決定します。リーダーに対して、ヒヤリ地図作成作業の目的や手順などを指導する必要があります。ある地域で、実施グループが複数になる場合は、各リーダーを集めて、指導と打ち合わせをします。

③主催者とリーダーとの打ち合わせ

イ．打ち合わせの内容

具体的には、主催者がリーダーに趣旨を説明し、話し合いをしながら、できるだけリーダーの提案を取り入れて、計画を立てることが必要です。

さらにそこでは、ヒヤリ地図を作成するための手引きなどを使って、作業の進め方を説明します（ここでも上から進め方を押しつけるのではなく、リーダーの提案を受けながら修正していくことが必要です）。

メモ

ロ．白地図に示す地域の範囲

主催者とリーダーとの打ち合わせで、もう一つ重要なポイントは、白地図に示す地域の範囲をどの程度にするかという相談です。作業に参加する高齢者が日常生活の中で、買物や通院、あるいは知人の家への訪問などで、どの範囲を主に動いているかで決まってくる事柄です。一般的には町内会や地域の老人クラブ、小学校区、中学校区程度の範囲がおよその見当になります。

町内会や老人クラブが単独で主催する場合には、主催者代表がリーダーを兼ねることがあります。その際は、リーダー自身でこの範囲を考えます。

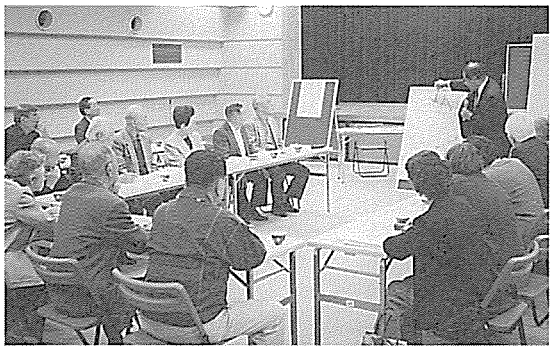
ハ．模擬実験

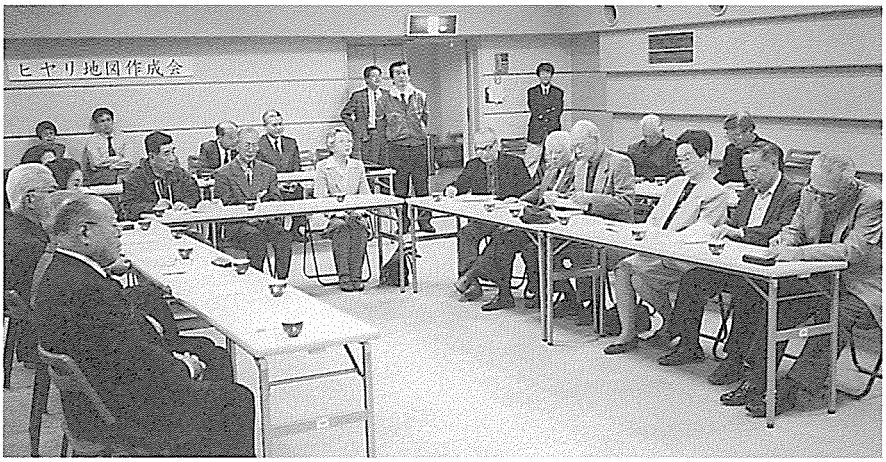
リーダーに模擬的な実験をやってもらうことも理解を助けます。

ヒヤリ地図作成の実験に先立って、国際交通安全学会のヒヤリ地図研究班も、事務所のある東京・八重洲周辺の白地図を使い、ヒヤリ地図を作る模擬実験をしました。

また東京では、1997年10月31日、杉並警察署が管内の老人会リーダーに呼びかけて、ヒヤリ地図の作成を呼びかける説明会を開き、模擬実験をしました。

模擬実験ではなく本番ですが、北海道・根室警察署は、同年11月12日、根室交通安全協会と協力、根室市西浜新団町会の老人クラブ寿会の会員に呼びかけて、ヒヤリ地図を作りました。





ヒヤリ地図作成の説明会（杉並区）

メモ

④ヒヤリ地図作成作業への参加の呼びかけをします

イ．呼びかけの方法

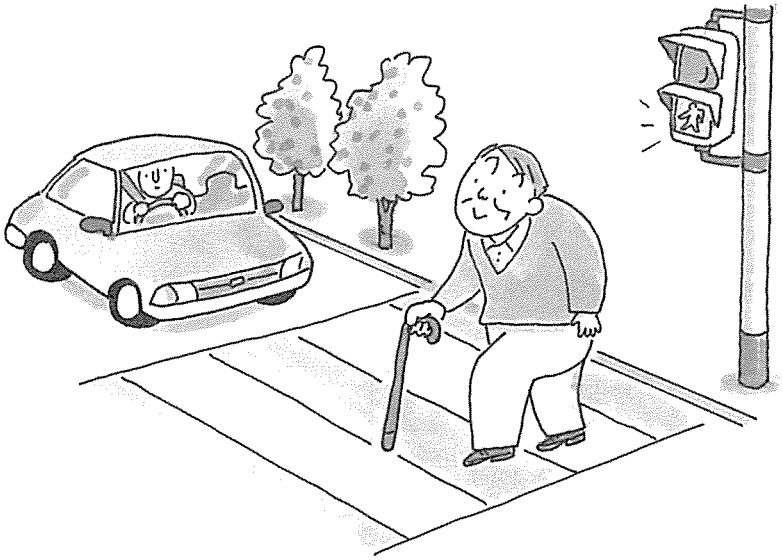
主催者はリーダーと相談しながら、また主催者代表がリーダーを兼ねる場合は自分で、ヒヤリ地図作成作業に参加する高齢者を募るために、どんな方法で呼びかけるかを決めます（詳細は21ページ **D．資料のⅠ**項参照）。

ロ．作業の日時

作業の場所や日時を決めます。

ハ．作業の規模

参加してもらう高齢者の人数は、国際交通安全学会の経験では、1チーム15人前後で、時間は2時間は確保しておくのが適当です。もしそれ以上の人々が参加を希望するようでしたら、2チームに分ける方法もあります。



Ⅱ．用意するもの

メモ

①会場

イ．会場の用意

できれば地元町内に、20人程度の人が集まれる広さの会場を用意します。

前に１チームは15人前後が適当と書きました。それなのに会場は20人程度が集まることのできる広さをというのは、警察や自治体の人に見てもらったり、他の地区のリーダーたちに見学をしてもらうことがあるからです。また、すでにヒヤリ地図を作った地区のリーダーに出席を依頼し、指導を受ける場合もあるでしょう。

ロ．会場の条件

畳の部屋でもできますが、畳に座ることが辛い方もいらっしゃるので、イスに腰掛けられる会場をおすすめします。どちらにしろ机は必要です。

ハ．その他の備品

大きな白地図を貼るための板、あるいは黒板、白板(ホワイトボード)が必要です。

ニ．ビデオ再生設備など

参加者が作業の手順を理解しやすくするために、できればビデオなどの視聴覚教育用の機器が揃っていれば最高ですが、なくても構いません。

国際交通安全学会が制作した手引きのビデオ『ヒヤリ地図をつくろう』を、実費でお頒(わ)けする予定です。

ホ．お茶、お茶菓子

気分をなごやかにするために、お茶などの準備ができれば理想的です。

ヘ．テープレコーダー

リーダーが報告書をまとめるのに、テープレコーダーなどもあると便利でしょう。

②用具

イ．白地図

これは、実際の作業を進めるにあたって絶対に必要なものです。

ロ．白地図の作り方

世帯主名の入った住宅地図などを拡大コピーし、それを何枚か張り合わせて、１×1.5㍍程度の大きさにします。

東京・杉並での国際交通安全学会の作業では、『ゼンリン住宅地図'97杉並区』(株式会社ゼンリン、1996年12月発行)から、該当する各ページをコピーして張り合わせました。手に入りにくい場合は、自治体や警察に相談してみて下さい。

ハ．この手引きで使う「型（かた）」という言葉

メモ

この手引きには、型（かた）という言葉が何度か出てきます。

型というのは、共通の性質、特徴をもつものどうしを、まとめてくくった一つのまとまりのことです。

ヒヤリ体験には無数の場合がありますが、これを作業の都合でいくつかの型に分けることにしました。

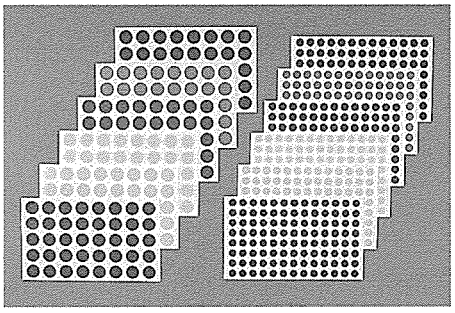
たとえば、「歩いていて自転車にヒヤリ」の型、「歩いていて自動車にヒヤリ」の型、「車を運転していてヒヤリ」の型のように、別々の型として区別します。

また、相手が動いてはいないけれど、放置自転車などがいっぱいの狭い歩道や、つまずく危険のある路面などの不愉快なところや危険な場所も、ヒヤリの型の一つ「道路でのヒヤリ」の型として扱います（**A．ヒヤリ地図って何でしょう？のⅠ**項参照）。

ニ．タックシール

白地図に貼り付けるための小さなタックシール（**AのⅢ**項参照）を５色程度用意します。

いくつものヒヤリの型の中から、自分たちの地域では特にどの型のヒヤリに注目するかで、タックシールの色を何種類使うかも変わってきます。



タックシール（色は裏表紙参照）

どんな型のヒヤリについてシールを貼るかを、参加者に相談して、３つから多くても５つ程度を選択します。

国際交通安全学会の実験では、三重県鈴鹿市の場合には、「車を運転していてヒヤリ」の型にもシールを貼りましたが、東京の杉並区ではこの項目は省略し、「歩いていて車にヒヤリ」と「歩いていて自転車にヒヤリ」、「道路でヒヤリ（不愉快なところ、注意しているところ）」の３つの型に絞りました。市街地の杉並区では、圧倒的に「歩いていてヒヤリ」が多いからです。

時間にゆとりがあるようでしたら、自分の家の場所にシールを貼ると、周辺の状況がわかりやすくなります。

メモ

ホ．マーカーペン（各色）

みんながよく知っていたり、利用したりする施設や、大きな道路を地図上で目立つようにするために、マーカーペンを用意しておくと便利です。

ヘ．アンケート用紙

ヒヤリ地図を作り終わったあとで、参加した感想を記入してもらうためです。

国際交通安全学会が、作業のあとで参加者に記入してもらったアンケート用紙とその回答例とを、参考のために資料として紹介しておきます（23ページ D.資料のⅡ項参照）。

アンケートに回答する参加者（杉並区）

Ⅲ. 作業実施

メモ

①リーダーによる説明

大事なことは、参加者が上からいわれて行なうのではなく、自分たちのために、自分たちの企画で地図をつくっているのだと実感してもらうことです。

イ．趣旨説明

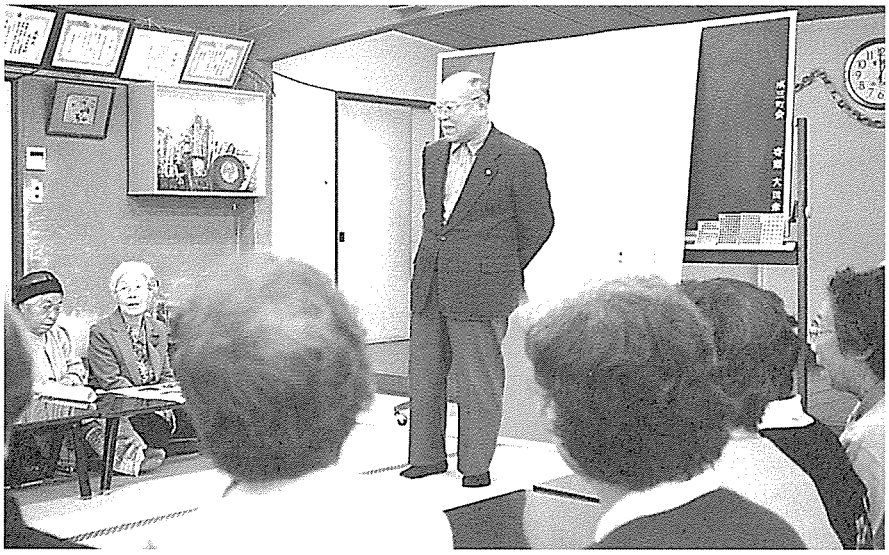
リーダーは一方的に話すのではなく、参加者から質問や提案などを受けながら、趣旨の説明を進めます。

ロ．進め方の説明

つぎにリーダーは、ヒヤリ地図作成の手引きやビデオを使って、作成作業の進め方を説明します。

リーダーは、考えられるヒヤリ体験のいくつかの例の中から、その地域の特性を判断して、どんな型のヒヤリ場面に絞って取り上げるのが適当か（たとえば「車を運転していてヒヤリ」という型を入れるかどうか）などを、参加者の意見をできるだけ取り入れながら決めていきます。

ヒヤリ場面の型の選択：時間が十分あるかどうかも、ヒヤリ場面の型を絞ったり増やしたりに関係することがあるでしょう。それに応じてタックシールの色数も変わります。



リーダーから趣旨や進め方を説明（杉並区）

ハ．（必要なら）地域の範囲の再検討

すでに用意してきた白地図も、その中での対象地域の範囲について、参加者と話し合う必要が生まれるかもしれません。そのことは参加者に、地図をよりよく理解してもらう助けにもなるでしょう。

ニ．（必要なら）軽い練習、あるいは相談

みんなが堅くならず、積極的に発言してもらったり作業をしてもらうために、軽い準備運動として、「きょうはここまで、楽に来ることができましたか？」などについて、みんなに簡単に語ってもらうのもいいでしょう。

②作業１（地図を理解してもらう）

イ．地図の上の主な建物や道路などを確認

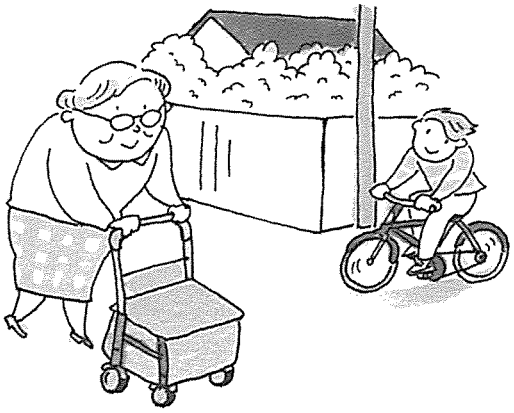
参加者に実際に作業してもらうには、第１に地図を理解してもらうことが大事です。理解を助けるために、地図上の主な建物や道路などをマーカーペンで塗りつぶすなどの方法があります（事前にリーダーがその作業をしておけば、作業時間は短縮されます）。

ロ．現在作業している会場を地図上で確認

作成作業をする会場の位置にしるしをつけることも大事です。

ハ．地図の上で各参加者の家を見つける

Ⅱ．用意するもの②用具のニ項でも書きましたが、時間にゆとりがあるときには、地図にある各参加者の家に共通の色のタックシールを貼ってもらいましょう。こうすることでヒヤリ個所を見つけやすくなります。



メモ

③作業２（ヒヤリ個所の指摘）

リーダーはできるだけ和気あいあいと作業が進むようにリードします。

イ．参加者の一人一人にタックシールを配る

ロ．シールを貼る順序

まず歩いていて車にヒヤリとした個所（交差点、道路など）に、一人ずつ順番にシールを貼っていきます（杉並の作業では、この場合、赤を貼りました）。

ヒヤリ個所にシールを貼る（杉並区）

ハ．同じ場所でもどんどん貼る

同じ場所で何人もがヒヤリとしたなら、少しずらしてどんどん貼ります。これは重要なことです。

何枚も貼られたところは特に危ないところということになります。

ニ．自分の貼った個所が少なくてもいい

貼る場所が少ない人が恥ずかしがることはまったくありません。

また、誰かが貼ったところを、他の人が「そこは危なくない」などと否定しては絶対にいけません。

メモ

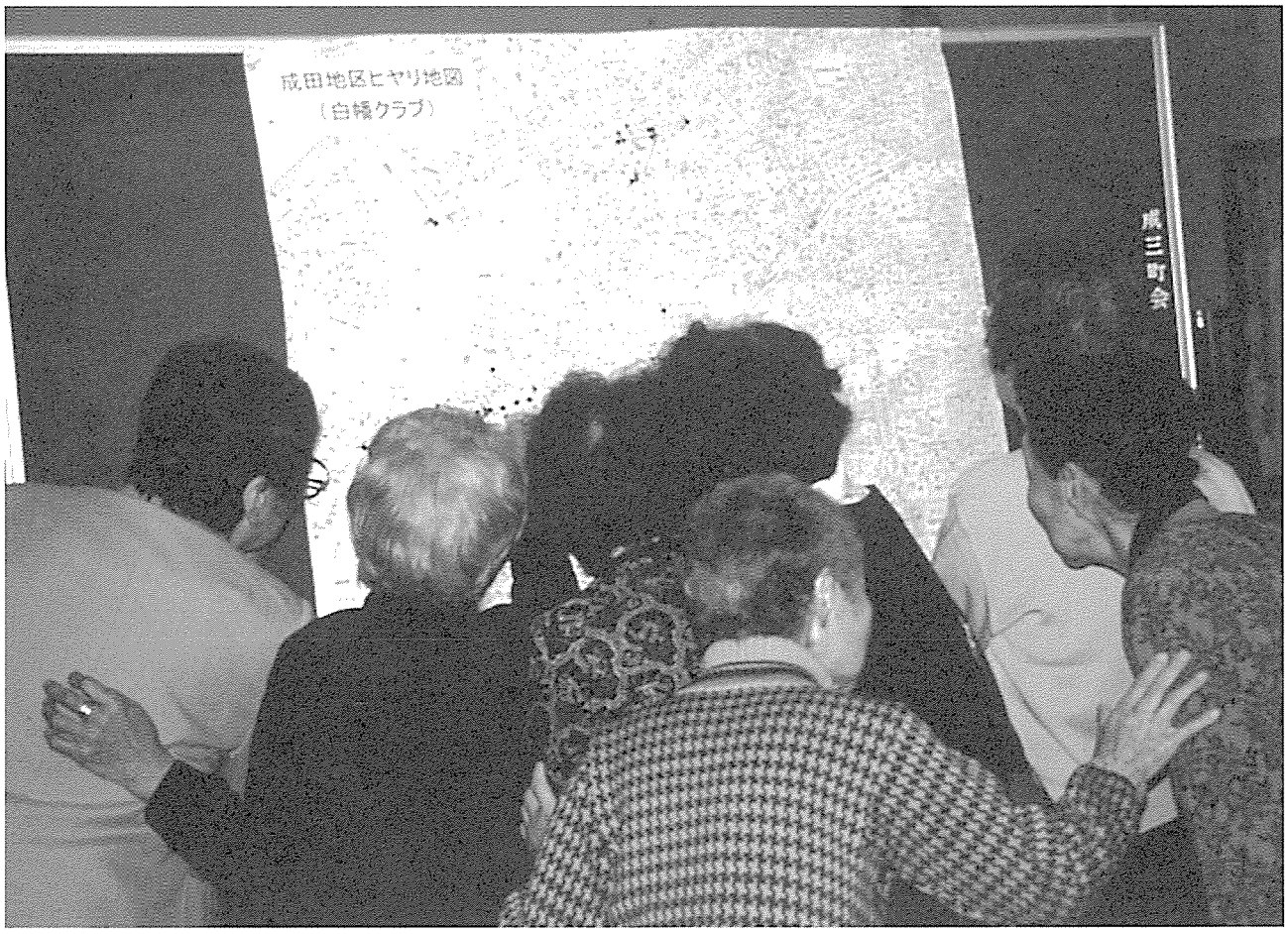
ホ．道のでこぼこにも貼る

車によるヒヤリが終わったら、別の色を使って自転車によるヒヤリへ（杉並では青を貼りました）、つぎには車を運転していてのヒヤリへと進みます。

さらに道路のでこぼこでつまずきかけたり、見通しが悪くてこわい思いをしたり、電柱が出っ張っていたり、放置自転車が空間を占領していて、危ない場所、不愉快な場所を「道路でのヒヤリ」として、別の色のシールを貼ります（杉並では緑を貼りました）。

こうして白い地図の上に色のついたシールがどんどん貼られ、見た目にもなかなかきれいなヒヤリ地図ができ上がります。

メモ



シール貼りが和気あいあいと進む（杉並区）

メモ

④作業３（作成した地図の確認と掘り下げ）

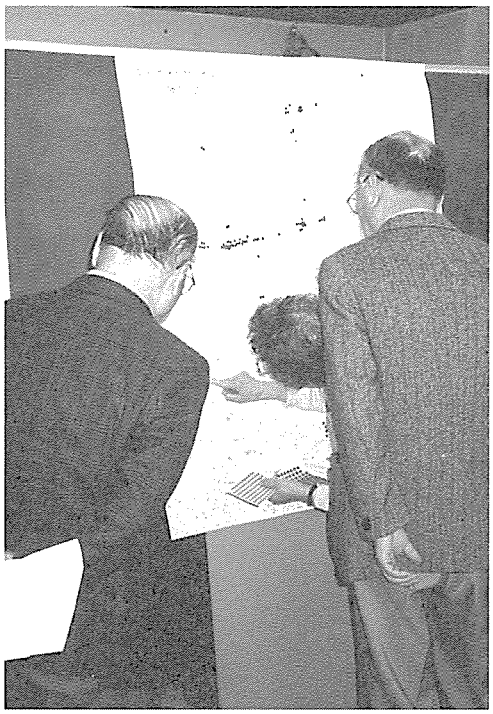
イ．シールの貼られた場所をみんなで再確認します

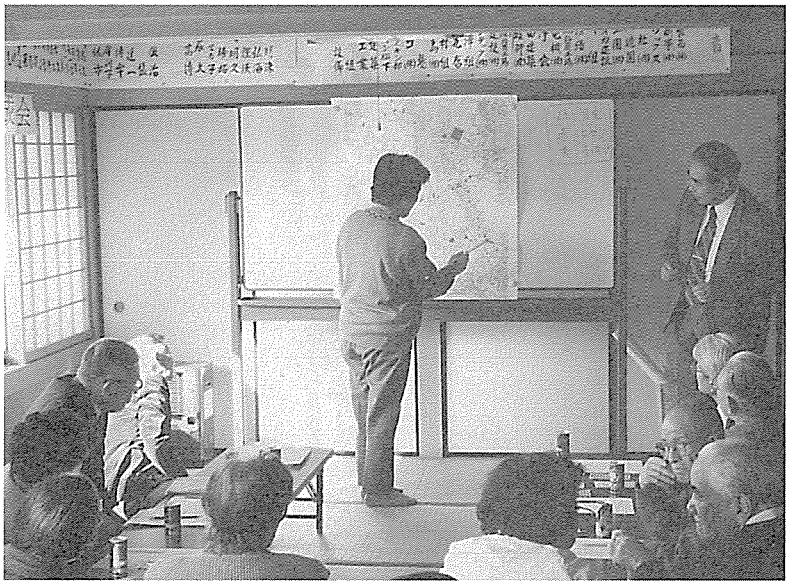
これまでの例では、作成が終わると、みんなで作った地図だということで、多くの参加者が達成感を感じるようです。

ロ．リーダーは、ヒヤリ個所の説明を参加者に求めます

シールの貼られた場所について、貼った参加者にそこがどんな場所かを説明してもらい、なぜ、どのようにヒヤリとしたのかを語ってもらいます。昼か夜か、晴れていたか、雨だったかなども確かめます。

参加者の説明は、地図の前に出てきて話してもらうと、みんなにわかりやすくなります。





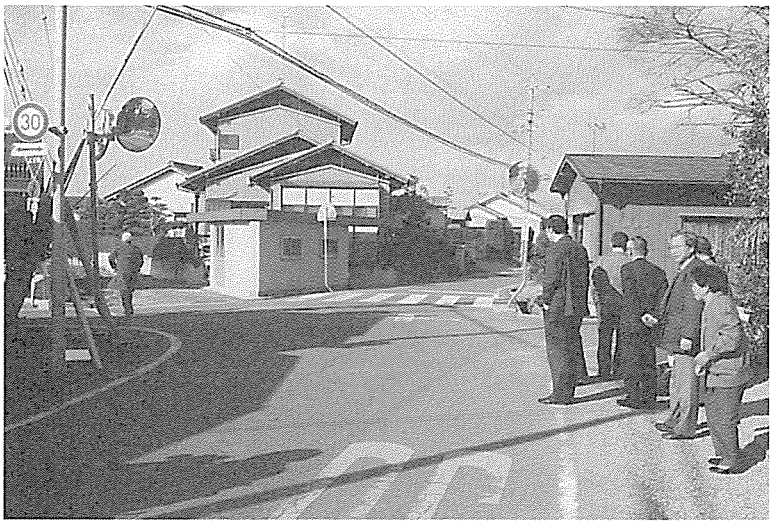
作成した地図の確認と掘り下げ（上：杉並区、下：鈴鹿市）

メモ

ハ．気がついたヒヤリ個所の改善提案を出してもらいます

もし時間に余裕があれば、気分転換も兼ねて、会場近くのヒヤリ現場に出て点検してみることも効果が上がります。

鈴鹿市玉垣地区では、ヒヤリとした場所をみんなで見に行き、いくつかの改善案が出てきました。



現場に出て点検してみることも有効(上：杉並区、下：鈴鹿市)

ニ．リーダーは、あとあとのために、この会合の記録をとり、報告書を作ります

ホ．できればヒヤリ地図と、同地域の「事故発生地点図」とをくらべてみましょう

警察の協力で、もし地域の「事故発生地点図」が手に入れば、それとヒヤリ地図とをくらべてみることも大切でしょう。

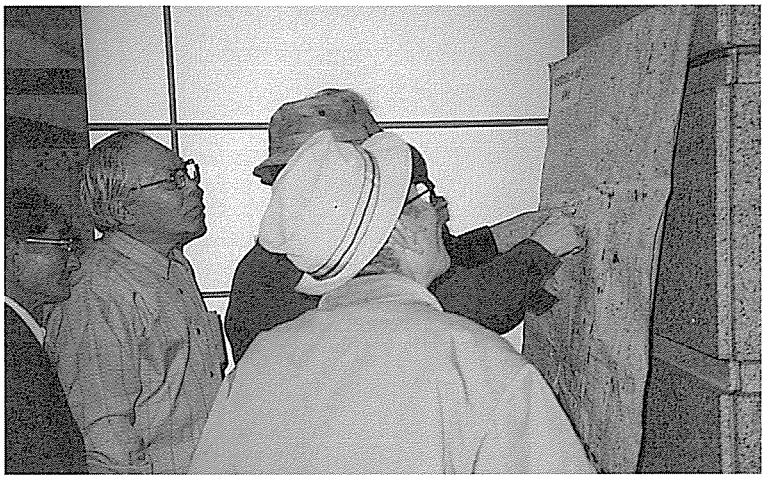
根室警察署は、97年11月のヒヤリ地図作成のあと、事故発生地点を描いた透明のビニールをヒヤリ地図の上に重ねてみました。事故発生地点とヒヤリ個所とは食い違いもありました。それがなぜかを考えてみることも大事でしょう。

Ⅳ．ヒヤリ地図を公開して、さらに充実させましょう

メモ

公開の方法は、印刷して配るというやり方もありますし、公の場所にヒヤリ地図を掲示する方法もあるでしょう。さらに、それを見た人にヒヤリ個所を追加してもらうという仕方もあります。これはより多くの人に、まちの危険への関心を持ってもらうことにもなります。

東京・杉並警察署は杉並区役所と協力して、杉並警察署管内の白寿会（２回目）、白幡クラブ、長寿会が作った３つのヒヤリ地図を、1997年12月15日から19日までの５日間、区役所内に掲示し、傍らにタックシールを用意して、来合わせた高齢者にヒヤリとした場所を追加してもらいました。



でき上がった地図を公の場所に掲示して、シールを追加（杉並区）

Ⅴ．応用を考えて下さい

国際交通安全学会がこれまで研究してきたヒヤリ地図は、高齢者自身に作成していただくことを念頭に置いていました。しかしヒヤリ地図は、他の年齢層の方々にも、その安全への関心を育てる手段として応用できる方法です。

あるいは、高齢者がヒヤリとするであろう場所を、若い人たちに指摘してもらう地図を作ってもいいと思います。その作業によって、若い人たちが高齢者の安全問題に関心を持ってくれることも期待できると思います。

また、隣接し合う地域でそれぞれヒヤリ地図を作った場合、それをつなぎ合わせてみると、新しい発見を生み出す可能性があるでしょう。

こうした例にみられるように、ヒヤリ地図はさまざまな応用が可能だと、私たちは考えています。みなさんがさまざまな応用の分野を創造して下されば幸いです。

D 資料

Ⅰ.「C.ヒヤリ地図作成の手順をすこし詳しく」の補足

準備の項

準備段階としては、やはり市区町村の交通安全担当者や警察署交通課に趣旨を説明し、その協力を得るというところから始めるのがいいでしょう。ヒヤリ地図づくりには、その趣旨や進め方を理解し、しかも高齢者が積極的に発言したり、シールを貼ったりするように誘いこむことのできるリーダーが必要不可欠です。そこで、主催者は自分に心当たりがなければ、その地域のリーダーとしてどんな人がいいかを、地元の事情に詳しい自治体や警察の交通担当者に相談するとよいでしょう。

①自治体の交通安全対策担当者への趣旨説明、相談の内容

メモ

イ．リーダーとして、どんな人たちに期待できるか

シルバーリーダー、老人クラブリーダー、場合によっては、交通安全指導員、婦人警察官、交通安全協会リーダー、交通安全母の会員なども。

ロ．実際に参加してもらう人たちを、どのような組織を通じて集めるか

老人クラブ、町内会、地域老人福祉センター、高齢者へのボランティアグループ、商店会なども。

老人クラブなど既存の組織を通じて呼びかけていくことは、確実ではありますし、やりやすさもあります。しかし一方で、そうした組織に参加していない高齢者にも交通事故の問題が関わっていることを考えますと、さまざまな側面から参加者を集めることも必要になってきます。

ハ．どんな経費がかかるか

会場費(作業場所)、作業に必要な消耗品（白地図、タックシール、マーカーペンなど)、集会のお茶代、報告書作成費、市区町村全体のマップ作りに要する費用、一般にヒヤリ地図を印刷配布したり公開するための費用など。

②警察署交通課への趣旨説明、相談の内容

イ．リーダーとして、どんな人たちに期待できるか

シルバーリーダー、老人クラブリーダー、場合によっては、交通安全指導員、婦人警察官、交通安全協会リーダー、交通安全母の会員なども。

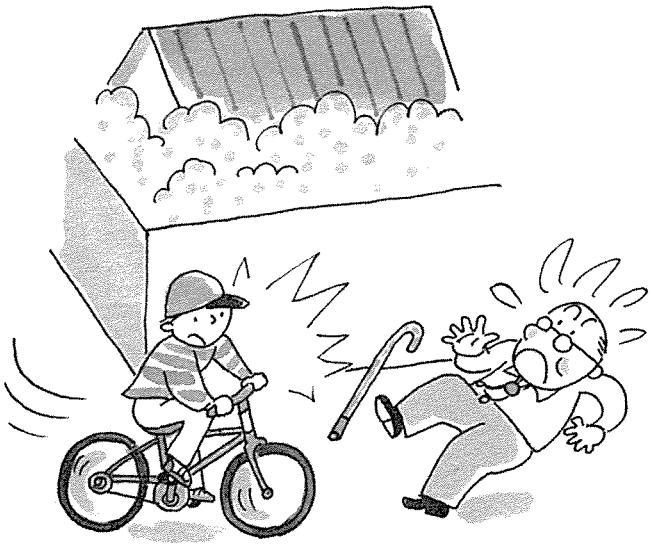
ロ．実際に参加してもらう人たちを、どのような組織を通じて集めるか

老人クラブ、町内会、地域老人福祉センター、高齢者へのボランティアグループ、商店会なども。

ハ．「事故発生地点図」を活用させてもらえるか

警察のつくっている管内の「事故発生地点図」を、「ヒヤリ地図」と比較して勉強するために、活用させてもらえるか。

メモ



Ⅱ．ヒヤリ地図完成後に参加者に記入してもらうアンケート用紙

イ．国際交通安全学会が使ったアンケート用紙

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。
今後の研究の参考とさせていただきたいと思いますので、下のアンケートへのご協力をお願いいたします。

財団法人　国際交通安全学会

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

問１　あなたは、今回の「ヒヤリ地図作成会」に参加してよかったと思いますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１．非常によかった	２．まあよかった
３．どちらともいえない	４．時間のムダだった

問１－２　＜問１で、１または２に○をつけた方にうかがいます＞
あなたが「よかった」と思うのはどんな理由からですか。
あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

１．楽しく作業ができた
２．危険な場所がわかった
３．安全を守ろうという気持ちが強くなった
４．いろいろ提案ができた
５．仲間づくりに役立った
６．ただ何となく
７．その他〔　　〕

問２　今回の「ヒヤリ地図作成会」の進め方についての感想は次のどれに近いですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

１．もう少し時間をかけた方がよい
２．もう少し時間を短くした方がよい
３．もう少しテキパキ進めた方がよい
４．もう少し参加者にまかせた方がよい
５．今回のままでよい
６．作業の目的がよくわからなかった
７．作業の意味がよく理解できた
８．その他〔　　〕

問３　このような「ヒヤリ地図作成会」に参加することを友人に勧めたいと思われますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１．ぜひ参加させたいし、参加する人がいそうだ
２．参加させたいが、参加しそうな人はいない
３．参加しそうな人はいるが、参加させたいとは思わない
４．参加しそうな人もいないし、参加させたいとも思わない

問４　この「ヒヤリ地図作成会」に関する問題点、改善点をぜひお知らせください。

問５　あなたの性別に○をつけてください。

１．男性	２．女性

問６　最後に、どんなことでも結構ですから、この「ヒヤリ地図作成会」に対するご感想をお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました◆

ロ．国際交通安全学会がヒヤリ地図作成会場で行なったアンケート調査の概要

メモ

計５回のヒヤリ地図づくりで、私たちは、つぎのそれぞれの会場で、参加者にアンケート用紙で感想を聞いた。

白寿会：東京・杉並（計２回）
白幡クラブ：東京・杉並
長寿会：東京・杉並
南玉垣松葉会：三重・鈴鹿

第１問は、「今回の会合に参加してよかったと思いますか？あてはまる番号１つに○をつけて下さい」で、

①非常によかった
②まあよかった
③どちらともいえない
④時間のムダだった、の４項目を示した。

これに対して次の表のように、白寿会の２回目と長寿会の席では、回答者の全員が、「非常によかった」にマルをつけた。18人が回答した南玉垣松葉会では、17人が「非常によかった」だったが、１人は「まあよかった」につけた。

「非常によかった」が7割でとどまったのは、参加者が20人を超えた第1回の白寿会（地図の作成には44人が参加）と白幡クラブ。3割近くが「まあよかった」につけた。

メモ

会合に参加してよかったと思うか

	白寿会2回目（回答者10）	長寿会（回答者14）	南玉垣松葉会（回答者18）	白幡クラブ（回答者26）	白寿会1回目（回答者37）
非常によかった	10(全員)	14(全員)	17(殆ど全員)	19(約7割)	27(約7割)
まあよかった	0	0	1(僅少)	7(約3割)	10(約3割)
どちらともいえない	0	0	0	0	0
時間のムダだった	0	0	0	0	0

この満足度の違いは、作業が単に地図づくりに終わったか、それとも地図づくりのあとに、どんな状態でヒヤリとしたかをつめたり、そこにどんな対策が考えられるかを話し合う時間が充分にとれたかどうかに関係してくるのではないだろうか。

問の中に、会合のすすめ方について、「もう少し時間をかけた方がよい」、「もう少し短くした方がよい」「今回のままでよい」という項目がある。この問に対する各地区の回答を整理すると、次のようになる。

会合の進め方についての回答（複数回答）

	白寿会2回目（回答者10）	長寿会（回答者14）	南玉垣松葉会（回答者18）	白幡クラブ（回答者26）	白寿会1回目（回答者37）
もう少し時間を	0	10(7割)	4(約2割)	5(約2割)	21(約6割)
もう少し短く	0	0	0	1(僅少)	2(僅少)
もう少しテキパキ	0	1(1割未満)	1(僅少)	1(僅少)	4(約1割)
もう少し参加者に一任	0	1(1割未満)	1(僅少)	0	0
今回のままでいい	8(8割)	3(約2割)	10(約6割)	6(約2割)	9(約2割)

長寿会では、7割が「もう少し時間をかけた方がよい」といっている。白寿会1回目では、6割以上の参加者が同じ回答をしている。

他の3会場の作業が2時間以上の時間をかけて、作業後の話し合いにもかなり時間を使えたのに対して、この2会場には制約があり、白寿会の1回目は1時間、長寿会は1時間半しか使えなかった。さらに白寿会の1回目は、単に時間が短かっただけではなく、作業参加者が44人で、ヒヤリとした場所をめいめいが十分に思い出しながら貼っていくゆとりを持てなかったことも、参加者めいめいの時間を短くする結果になったと考えられる。

以上の経験から、私たちは適正な参加人数は15人前後まで、用意する時間は2時間以上と考えている。

また、「非常によかった」、「まあよかった」と答えた参加者たちは、作業を通してどんな感想を持ったであろうか（複数回答）。

次表のように、いずれも「危険な場所がわかった」、「安全を守ろうという気持ちが強くなった」の２点に回答が集中していた。

メモ

参加してよかったと思う理由（複数回答）

	白寿会２回目（回答者10）	長寿会（回答者14）	南玉垣松葉会（回答者18）	白幡クラブ（回答者26）	白寿会１回目（回答者37）
楽しく作業ができた	3（３割）	6（約４割）	2（約１割）	2（１割未満）	3（１割未満）
危険な場所を理解した	7（７割）	12（９割）	16（約９割）	20（約８割）	27（約７割）
安全を守る気持ちが強く	5（５割）	12（９割）	15（約８割）	13（５割）	13（約４割）
提案ができた	1（１割）	5（約４割）	4（約２割）	2（１割未満）	5（約１割）
仲間ができた	2（２割）	6（約４割）	3（約２割）	3（約１割）	2（僅少）

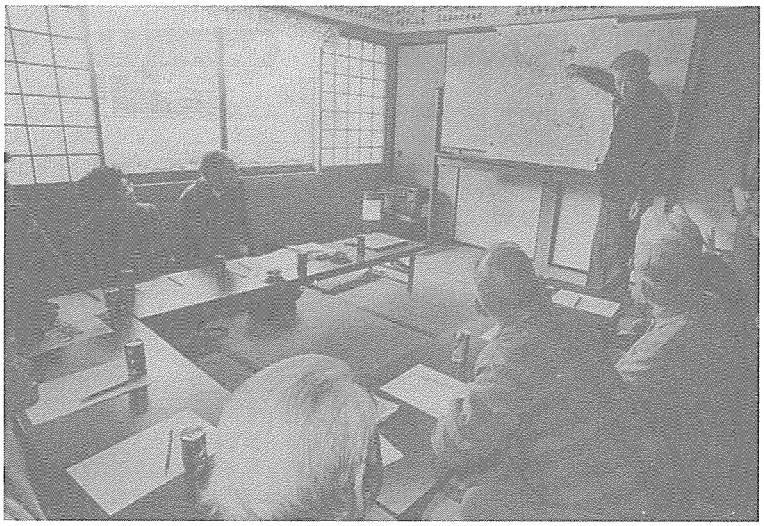
以上の回答が建前ではなく、本音の回答だとするなら、「高齢者自身による高齢者の交通教育」の一つとして、私たちが試みた「ヒヤリ地図」の作成は、その趣旨を叶える方法としての可能性を示したといえるのではないか。

最後に、「ヒヤリ地図づくりの会合への参加を友人に勧めたいか」という問いも設けた。つぎの回答が寄せられた。

	白寿会２回目（回答者10）	長寿会（回答者14）	南玉垣松葉会（回答者18）	白幡クラブ（回答者26）	白寿会１回目（回答者37）
ぜひ。希望者はいそうだ	7（７割）	13（約９割）	16（約９割）	13（５割）	22（約６割）
勧めたいが希望者なさそう	0	0	2（約１割）	9（約４割）	5（約１割）
参加させたいと思わない	1（１割）	0	0	0	2（僅少）

Ⅲ. 新聞に掲載されたヒヤリ地図づくり

伊勢新聞（1997年１月12日）



ヒヤリとした場所の説明をする参加者＝鈴鹿市東玉垣町の弥都加伎神社で

参加者がヒヤリとした場所などをマーキングした〝ヒヤリ地図〟

鈴鹿 老人の事故防止にヒヤリ地図を作製

成果踏まえ全国展開へ

高齢社会向けモデル事業

【鈴鹿】高齢者の交通事故を防ごうと、高齢者自らに〝ヒヤリ〟とした交通危険個所の地図を作ってもらう「高齢者ヒヤリ地図作製会」が十一日、鈴鹿市東玉垣町の弥都加伎（みずかき）神社で開かれた。高齢社会に向けて財団法人国際交通安全学会（越正毅会長）が試験的に実施したモデル事業。プロジェクトリーダーの鈴木春男千葉大学文学部教授（五八）は「鈴鹿での成果を踏まえ、全国展開していきたい」と意気込んでいる。

国際交通安全学会は、本田技研工業を創業した故本田宗一郎氏の出資で昭和四十九年に設立された。広く交通問題を研究している。

三年前から高齢者の交通安全対策に取り組んでおり、今年度の研究テーマは「シルバーによるシルバーのための交通政策」。「ヒヤリ地図」は、今年度から始め、市内で三回目の開催になる。〝ヒヤリ〟を発表しあうことを通して、高齢者の交通安全への意識を高めてもらうのが狙いだ。

同学会と市交通安全都市推進協議会、市老人クラブ連合会の主催で開かれた、この日の「ヒヤリ地図」には、鈴木教授ら学会のメンバー六人、民間の交通問題シンクタンク「鈴鹿モビリティ研究会」、市交通対策課、鈴鹿署などの関係職員と、市老人クラブ連合会役員、地元の南玉垣町老人会「松葉会」（玉村精博会長）のお年寄りら計約三十人が参加した。

地図を作製する南玉垣地区の道路概況の説明の後、参加したお年寄りが、これまで〝ヒヤリ〟とした経験のある交差点など地図上に赤いシールを張っていった。

次に、参加者が何に〝ヒヤリ〟としたかを一人ずつが説明。「国道23号に向かう車が飛ばしていくので」「スーパーに近い交差点で、走っている車が曲がるのか、店の駐車場に入るのかが分からなかった」などの〝ヒヤリ〟や、「国道を横断する時に、右折する車優先のようになっていて渡れない」などの不満が次々に出されていた。

会の感想については「子や孫のため、年寄りがもっと声を出して道路をよくするのは大事なこと」「行政に頼るのではなく、自分は自分で守らないと」と前向きな意見が出るなどおおむね好評。

鈴木教授は「お年寄りの目線で見た問題点を提案してもらうことや、危なかったことを発言することで安全への効果が生まれるのでは」と「ヒヤリ地図」の成果に期待を寄せている。

今回の結果は報告書にまとめられ、三月の学会内の報告会などで発表される予定。

読売新聞（1997年２月18日）

お年寄りの「危険地帯」地図に

「国際交通安全学会」と杉並の高齢者クラブ

お年寄りが歩いていると、車や自転車が飛び出してきて「ヒヤリ」とさせられた。そんな場所を地図に示し、危険地点を浮かび上がらせる「ヒヤリ地図」が十七日、杉並区成田東地区で作られた。高齢者の立場から交通安全の調査を進める「国際交通安全学会」の取り組みに、同所一、二丁目の高齢者クラブ「白寿会」（森泰樹会長）が協力。机上では分からない危険マップを完成させた。

曲がり角、狭い歩道、死角 「ヒヤリとした地点」指摘

国際交通安全学会は二年ほど前から、プロジェクトの一つに高齢者の交通安全について考える調査を進めている。これまでにも、お年寄りへのアンケートや聞き取り調査をしてきた。

今回の「ヒヤリ地図」作りでは、評論家でもある岡並木さんらが、白寿会に協力を求めた。お年寄りの立場から、地域で危険と感じる場所を考えてもらうことで、「お年寄りたちが交通安全に関心を抱くきっかけにもなれば」（同学会）という。

事故が起きた場所の地図は、警察署などで作っているが、「ヒヤリ地図」は事故にまで至らない「潜在的な危険地域」を知るのが目的だ。

同様の調査は、三重県鈴鹿市でも行われたが、今回は「東京では、また違う結果が出るのでは」と都内では初の試みとなった。

地図作りには、白寿会の六十歳―八十歳代の会員約四十人が協力。会員が生活するJR阿佐ヶ谷駅南口から五日市街道付近までの拡大地図と、六色のシールをあらかじめ用意した。

「歩行中に車にヒヤリ」とさせられた危険な場所のほか、「歩行中に自転車にヒヤリ」「自転車に乗っていてヒヤリ」とした場所、さらに、水たまりや段差などがあって「不愉快なところ」などを、会員たちは思い出しながら、シールを張っていった。

最後に、シールが集中した場所について、岡さんが会員たちに理由を聞いた。

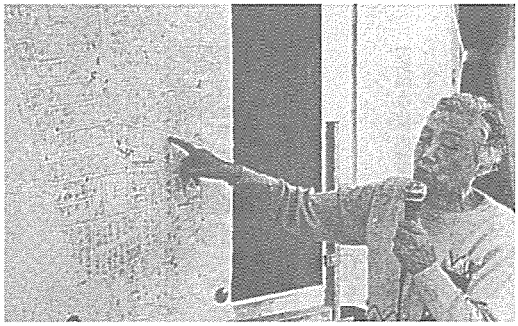
「歩道が狭く、曲がり角がよく見えない」「抜け道で車も人も多い」「自転車が走ってはいけない商店街通りを自転車が走っている」「空き家の木が道にはみ出し、道が狭くなっている」―。そんな理由がお年寄りたちからあがった。

地図作りを見守った岡さんは、「机の上で地図を見るだけでは分からない、新しい発見があったと思います」と満足そう。同学会ではさらに、「ヒヤリ地図」の分析や調査を進めていく考えでいる。

国際交通安全学会が用意した地図に「危険地域」のマークを付けるお年寄り

北海道新聞（1997年11月13日）

ヒヤリ！ここが危ない



自分が付けたシールを指して「ヒヤリ」とした体験を話すお年寄り

高齢者が地図作製

注意地点明示 「交通安全」身近に

根室

【根室】お年寄りが車や自転車とぶつかりそうになるなど「ヒヤリ」と感じた場所を地図に示す「高齢者ヒヤリ地図作製会」が十二日、根室市第二老人福祉センターで開かれた。道内初の試みで、三十一人が参加。十一人が事故に遭いかけた交差点が市内にあることがわかったほか、ミラーの設置などの要望が相次いだ。

高齢者が危険個所を再認識し、改善策を話し合うことで交通安全意識の向上を図ろうと、根室署が開いた。

地図製作は、本田技研工業の創設者、故本田宗一郎氏が交通安全のあり方を探る目的で設立した国際交通安全学会が、一九九六年に発表したアイデア。

同会には、市内西浜町の西浜新団町会のお年寄りが参加。

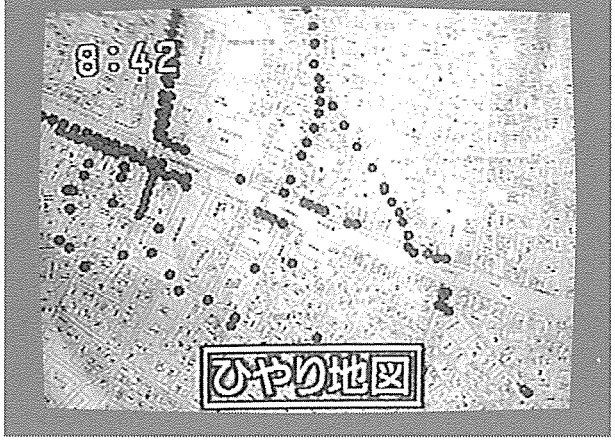
「自転車に乗っていて―」は黄、「車に乗っていて―」は青と、色別のシールを張ったところ、計五十一枚が同町会地区の地図をカラフルに染めた。特に、参加者が頻繁に利用する同センターやスーパーなどの施設周辺の交差点などに集中していた。

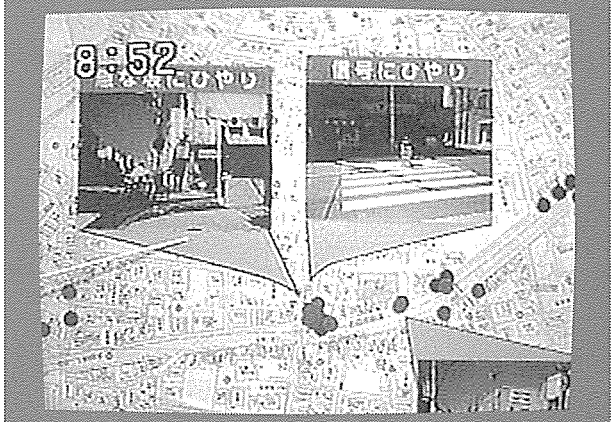
その後、各自がシールを付けた場所を指し示しながら「二人乗りの高校生二人に追突されかけた」などの「ヒヤリ」体験を報告。「この急カーブは見通しが悪いのでミラーを付けてほしい」などの要望も出た。

根室署の宇野昇交通課長は「横断歩道の設置などできることは積極的に対応していきたい」と話していた。

Ⅳ．テレビで放送されたヒヤリ地図づくり

NHKテレビ　生活ほっとモーニング（1997年４月11日）





IATSS自主研究プロジェクト

シルバーによるシルバー交通安全対策の提案

プロジェクトリーダー　鈴木　春男〔千葉大学文学部教授〕

プロジェクトメンバー　岡　並木〔評論家〕

片倉　正彦〔東京都立大学大学院工学研究科教授〕

詫間　晋平〔東京学芸大学教育学部教授〕

松村みち子〔タウンクリエイター代表〕

小河原将司〔鈴鹿サーキット交通教育センター特別講師〕

仲井　通裕〔本田技研工業(株) 鈴鹿モビリティ研究会事務局長〕

事務局　奈良坂　伸〔(財)国際交通安全学会研究調査部〕

今泉　浩子〔(財)国際交通安全学会研究調査部〕

ヒヤリ地図をつくろう

発　行　日　1998年3月10日

企画・製作　財団法人国際交通安全学会

発　行　所　財団法人国際交通安全学会

〒104-0028 東京都中央区八重洲2－6－20

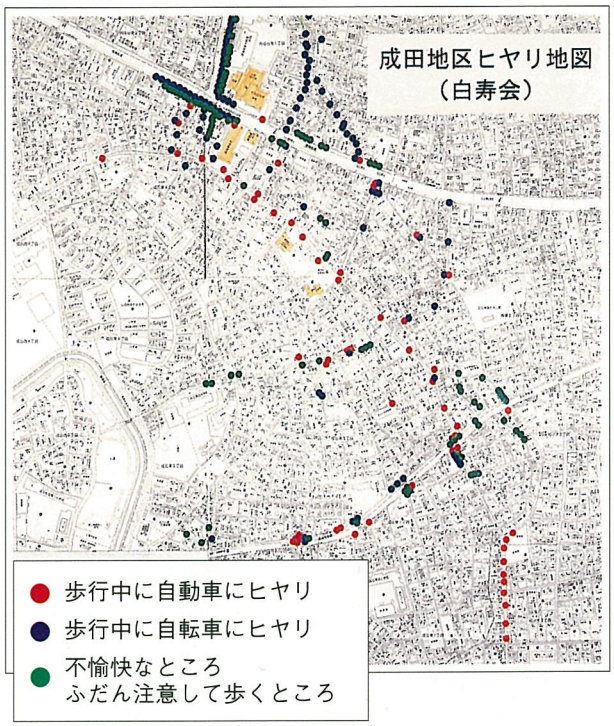
電話 03-3273-7884　FAX 03-3272-7054

編集制作　株式会社フロス

印　刷　所　株式会社ニッケイ印刷

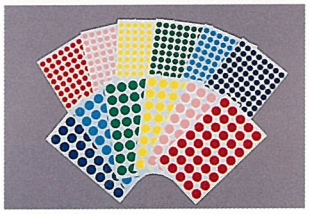
協力：株式会社ゼンリン　　表紙・本文イラスト：林　加奈子

東京都杉並区成田東地区（白寿会）ヒヤリ地図



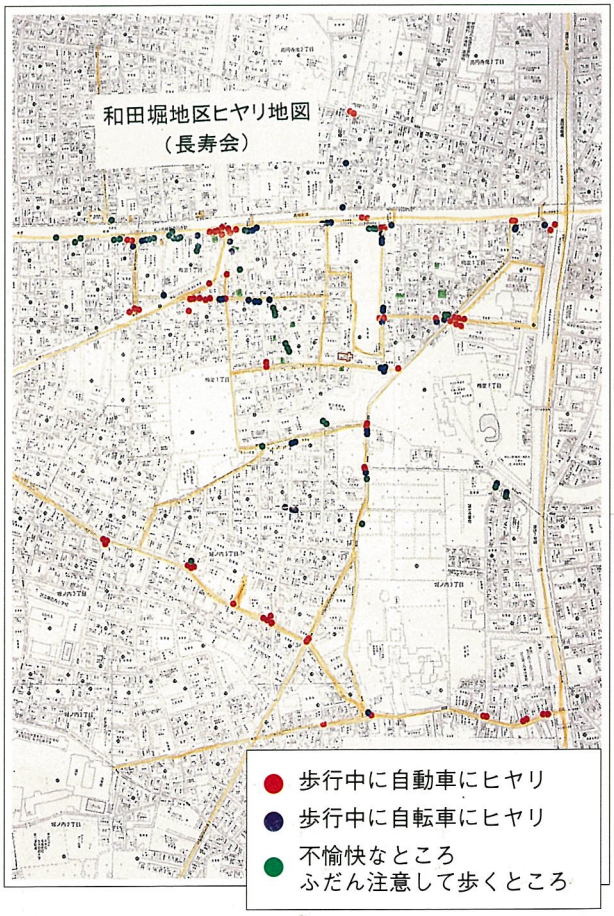
東京都杉並区成田東地区（白幡クラブ）ヒヤリ地図

三重県鈴鹿市玉垣地区（南玉垣松葉会）ヒヤリ地図



タックシール

東京都杉並区和田堀地区（長寿会）ヒヤリ地図



IATSS
International Association of Traffic and Safety Sciences
財団法人国際交通安全学会